

浜のおかあさん 自慢のコンブで地域を元気に

昆布森漁業協同組合 女性部 部長
大友 千鶴子 (おおとも ちずこ)

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しく北海道」運動第6回コンクールで奨励賞を受賞した団体、「昆布森漁業協同組合 女性部」部長の大友千鶴子さんにお話をお伺いしました。

《はじめり》

北海道の東部の太平洋側に位置する昆布森地区は、その名前のおと「昆布漁」が盛んで、6月に採れる昆布は『さおまえ昆布』と言い、食べる昆布として最高品質の評価を受けています。海の恵みを受け育ち、そして昔ながらの天日干しで作るにより旨みをたっぷりと含んでいます。その他に「定置網漁」や「牡蠣^{かき}養殖」などの漁業を家族で営んでいる港町です。漁業組合の組織は、男性が中心で行われていますが、少しでも女性も手助けが（ヘソクリができるように）できないかと考えたことがきっかけで、集まるようになりました。昆布森地区は、釧路市に近い所から厚岸に近い所まで42kmあり、その中で地域ごと13地区の組織が集まって活動しています。設立当初は、100名以上の会員ではじまり、今年で64周年を迎えました。現在は、高齢化や各漁業の仕事の忙しさもあり、会員数も65名ほどに減りましたが、漁業の仕事の合間を見て活動を行っています。

《主な活動》

植樹運動・前浜清掃・料理教室・水産加工品製作です。植樹運動は、森を作ることにより海を守ることに繋がるという思いで、はじめました。



植樹運動



この植樹運動や前浜清掃は、地元の小中学生も参加して活動しています。料理教室は、中学生を対象に授業の一貫として、また、町内外では、地元の特産品の鮭や昆布などを使用し、



料理教室

て年に1～2回開催しています。

水産加工品は、特産品の昆布をせん切りにした「すりむ昆布」・「^{かし}頭こい昆布」として販売しています。この商品は、女性ならではの視点から開発され、使いやすい、どんな料理にも合う、そして手軽に昆布の栄養が摂取できるのが魅力です。また、商品を使ったレシピ集を作成して無料で配布しています。



すりむ昆布・頭こい昆布

《もっと昆布森産で!!》

これらの活動は、昆布漁が最盛期の6月から8月まではできないため、それ以外の時期に計画を立てて活動しています。漁業の合間の活動ですが、新しい加工品の試作にも挑戦しています。今年は、漁れん施設の見学やコンブ商品を製造している工場の見学など、研修目的で女性部の親睦会を計画して、今まで以上に女性同士のネットワークをフル活用し、新しい発見や情報交換ができる交流の場になればと思っています。

最後に、一昨年、赤潮の被害を受けましたが、少しずつ回復しています。「もっと地域を元気に」「他の地域の人にも地元産の物を」という目標で、今後も活動を継続していきたいとお話ししていただきました。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しく北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。